

➤ 15日 水曜

ヨハネ



5:1 その後、ユダヤ人の祭りがあって、イエスはエルサレムに上られた。
5:2 エルサレムには、羊の門の近くに、ヘブル語でベテスダと呼ばれる池があり、五つの回廊がついていた。
5:3 その中には、病人、目の見えない人、足の不自由な人、からだに麻痺のある人たちが大勢、横になっていた。
5:4 【本節欠如】
5:5 そこに、三十八年も病気にかかっている人がいた。
5:6 イエスは彼が横になっているのを見て、すでに長い間そうしていることを知ると、彼に言われた。「良くなりたいか。」
5:7 病人は答えた。「主よ。水がかき回されたとき、池の中に入れてくれる人がいません。行きかけると、ほかの人が先に下りて行きます。」
5:8 イエスは彼に言われた。「起きて床を取り上げ、歩きなさい。」
5:9 すると、すぐにその人は治って、床を取り上げて歩き出した。ところが、その日は安息日であった。
5:10 そこでユダヤ人たちは、その癒やされた人に、「今日は安息日だ。床を取り上げることは許されていない」と言った。
5:11 しかし、その人は彼らに答えた。「私を治してくださった方が、『床を取り上げて歩け』と私に言われたのです。」
5:12 彼らは尋ねた。「『取り上げて歩け』とあなたに言った人はだれなのか。」
5:13 しかし、癒やされた人は、それがだれであるかを知らなかった。群衆がそこにいる間

に、イエスは立ち去られたからである。
5:14 後になって、イエスは宮の中で彼を見つけて言われた。「見なさい。あなたは良くなりました。もう罪を犯してはなりません。そうでないと、もっと悪いことがあなたに起こるかもしれない。」
5:15 その人は行って、ユダヤ人たちに、自分を治してくれたのはイエスだと伝えた。
5:16 そのためユダヤ人たちは、イエスを迫害し始めた。イエスが、安息日にこのようなことをしておられたからである。
5:17 イエスは彼らに答えられた。「わたしの父は今に至るまで働いておられます。それでわたしも働いているのです。」
5:18 そのためユダヤ人たちは、ますますイエスを殺そうとするようになった。イエスが安息日を破っていただけでなく、神をご自分の父と呼び、ご自分を神と等しくされたからである。

この足なえの人は、池に自分を入れてくれる人を願っていました。それは、池の水が動いた時に最初に入った人が癒されるという言い伝えを信じてのことでした。それは誰が言い広めたのが分りませんが、それを期待して、人々が池の周りに待機していたのです。しかし足が悪いこの人には希望がありませんでした。他の人に遅れを取るからです。

このように人間が作り出した条件を満たせずに、悩み続ける人はいるものです。しかし、本当に必要なものは違います。イエス様はそれを見抜いておられました。彼に必要なのは池ではなく、まして彼を「入れてくれる人」でもありません。「床を取り上げて歩」くことです。

私たちは回りに影響されて、本当に必要ではないものを求め続けて希望をなくしているかもしれ

ません。もう一度、神様から問いかけていただきます。そして神様から本質的な解決をいただきます。それは何でしょうか。教えていただきます。

安息日の規定は神様から与えられたものです。しかしユダヤ人たちは、神様よりも規定の方に固執していました。安息日は神様を第一にするためのものなのに、全く本末転倒なことをしてしまったのです。それだけでなく、安息日を守らないということで、神様ご自身である主イエスまでも迫害しました。

私たちもここは警戒しなくてはならないところです。神様の御心よりも、規定や権威を守ろうとするなら、このユダヤ人たちと一緒にです。

誰かとの関係で、自分が正しいはずと思っていることがあるなら、もう一度主の御心は何なのかを祈って聞いてみましょう。また主イエスをどんな規定よりも尊い方としてあがめましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

